

ミュージズ N0.17 平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行：2006年6月

編集：山根和代、山辺昌彦、安齋育郎、金英丸

翻訳：林清俊

イラスト：戸崎恵理子

事務局所在：東京大空襲・戦災資料センター内山辺昌彦気付

住所：東京都江東区北砂1-5-4

Tel: 03-5857-5631 Fax: 03-5683-3326

平和のための博物館・市民ネットワーク 事務局変更のお知らせ

事務局が立命館大学国際平和ミュージアムから、東京大空襲・戦災資料センター内山辺昌彦気付に変わりました。

「平和のための博物館・市民ネットワーク」 第6回全国交流会の案内

2006年11月11日（土）1時～5時と12日（日）9時～12時の予定で、東京都新宿区戸山の早稲田大学文学部の第一会議室で「平和のための博物館・市民ネットワーク第6回全国交流会」を開催します。会場は東京大空襲・戦災資料センターの会議ということで借りています。報告者を募集しますので、ご希望の方は9月末までに、事務局へ申し込んでください。報告時間は1人30分以内です。報告者は報告レジュメ・資料などは各自でご用意ください。

交流会では、「平和のための博物館・市民ネットワーク」の会計・事業報告をするとともに、「平和のための博物館・市民ネットワーク」のあり方や運営の仕方などについて討論する予定です。是非ご意見をお寄せください。

報告者としてではなく、交流会に参加のみの方も9月末までに、事務局へ申し込んでください。

交流会に先立ち11月11日（土）11時から12時すぎまで「女たちの戦争と平和資料館」の見学会を開催します。西野瑠美子館長に案内していただきます。ご希望の方は「女たちの戦争と平和資料館」の事務局（東京都新宿区西早稲田2-3-18AVACOビル2F 電話03-3202-4633）まで直接申し込んでください。参加費は500円です。「女たちの戦争と平和資料館」は通常は月・火が休館で、開館時間は1時から6時です。



erico

11日の18時から、早稲田大学の近くで懇親会を予定しています。懇親会費は4000円程度です。

宿泊などは皆様の方で確保してください。宿泊などの手配をご入用の方は、株式会社国際ツアーリスト・ビューロー東京営業所(〒112-0001 文京区白山 3-3-5 文京食品ビル402号、Tel03-5842-3071 Fax03-5842-3072)までお問い合わせください。

第10回「戦争遺跡保存全国シンポジウム」群馬大会のお知らせ

2006年の「戦争遺跡保存全国シンポジウム」は「アジア太平洋の戦争遺跡と21世紀の平和を考えるー戦争遺跡保存運動10年と展望」をテーマに、群馬県の水上温泉・松の井ホテルで8月19日～21日にかけて開かれます。20日の第3分科会は「平和博物館と次世代への継承」のテーマで開催され、北九州平和資料館をつくる会、松代大本営平和祈念館の方などから報告があります。参加ご希望の方は戦争遺跡保存全国ネットワーク事務局(〒380-0928 長野市若里 3-5-5 きぼうの家 松代大本営の保存をすすめる会 気付 Tel/Fax 026-228-8415)の島村晋次さんまでお問い合わせの上、申し込みください。

「平和のための博物館・市民ネットワーク」第5回全国交流会の報告

2005年12月3日(土)13時～18時と4日(日)9時～12時の日程で、京都市の立命館大学国際平和ミュージアムの会議室で「平和のための博物館・市民ネットワーク第5回全国交流会」が33人の参加により開催されました。

交流会では以下のような報告がありました。

立命館大学国際平和ミュージアムの安斎育郎さん「第5回国際平和博物館会議および第12回日本平和博物館会議の報告」

平和人権子どもセンター・教科書資料館の吉岡数子さん「教科書資料館の8年の歩み」

「『教科書が語る戦争』をテーマに教科書パネル(12セット・240枚)作製の歩み」

アウシュヴィッツ平和博物館の山田正行さん「アウシュヴィッツ平和博物館の取り組み」
「アウシュヴィッツ生存者講演会の記録・解説」
「『タマちゃん』と『白装束』ー戦争に目を向けさせずに戦争を行うためのプロパガンダ」

都立第五福竜丸展示館の安田和也さん「第五福竜丸展示館の開館30年と平和協会のとりくみ」

NPO 法人太平洋戦史館の岩淵宣輝・花岡千賀子さん「人命尊重の視点での未帰還兵捜索」

女たちの戦争と平和資料館の池田恵理子さん「バックラッシュの中で『女たちの戦争と平和資料館』をオープンして」

東京大空襲・戦災資料センターの梶慶一郎さん「東京大空襲・戦災資料センターの増築」

NPO 法人松代大本営平和祈念館・松代大本営の保存をすすめる会の馬場修・北原高子さん「『平和祈念館』への小さな一歩『戦後60周年 松代大本営平和祈念展』開催」

NPO 法人平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会の野間美喜子さん「NPO 法人平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会 これまでの歩み」

平和友の会の川畑康郎さん「今年も広がる新しい交流の場」

立命館大学国際平和ミュージアムの岡田英樹さん「立命館大学国際平和ミュージアム・リニューアルのポイント」

平和資料館「草の家」の金英丸さん「戦後

60年 戦争の記憶をめぐって」

吹田市の岩本吉剛さん「わだつみ記念館計画などについて」

3日の18時30分から、近くのレストラン「シーフード」において「平和友の会」のお世話で懇親会を開催しました。

交流会において討論の結果、「平和のための博物館・市民ネットワーク」事務局の責任者は山辺昌彦で変わらないが、事務局の所在地を2006年4月から東京大空襲・戦災資料センター内に移すこと、ニュース編集を山根和代・金英丸・安斎育郎・山辺昌彦が担当すること、運営には安田和也・梶慶一郎・池田恵理子・野間美喜子・岩本吉剛も運営委員として協力することを確認しました。

交流会で確認された会計報告は以下の通りです。

平和のための博物館・市民ネットワーク会計報告(2004年11月～2005年11月)

2005.11.30 現在

●会計報告

収入	
会費	1 3 2 0 0 0 円
カンパ	3 5 0 0 円
繰越	1 3 1 2 2 5 円
計	2 6 6 7 2 5 円
支出	
送料	1 4 5 6 7 0 円
会場費	1 0 6 0 0 円
繰越	1 1 0 4 5 5 円
計	2 6 6 7 2 5 円

●内訳

会費		
00年度	1人	2 0 0 0 円
01年度	1人	2 0 0 0 円
02年度	1人	2 0 0 0 円
03年度	2人	4 0 0 0 円
04年度	9人	1 8 0 0 0 円
05年度	51人	1 0 2 0 0 0 円
06年度	1人	2 0 0 0 円
計	61人	1 3 2 0 0 0 円

送料

英文12号	4 8 5 6 0 円
日文15号	2 5 7 6 0 円
英文13号	4 9 2 5 0 円
日文16号	2 0 3 9 0 円
その他	1 7 1 0 円
計	1 4 5 6 7 0 円

繰越

郵便振替	1 0 9 6 3 0 円
現金	8 2 5 円
計	1 1 0 4 5 5 円

●会員状況

個人会員	89人
2010年まで納付	1人
2008年まで納付	1人
2006年まで納付	1人
2005年まで納付	56人
2004年まで納付	9人
2003年まで納付	13人
2002年まで納付	5人
2001年まで納付	1人
2000年まで納付	1人
1999年のみ納付	1人
退会	1人
入会	10人

●ニュースの発行

英文 12号 2004年12月
日文 15号 2005年 6月
英文 13号 2005年 6月
日文 16号 2005年11月

忘れ去られた女たち

—「置き去りにされた朝鮮人慰安婦」展—
「女たちの戦争と平和資料館」館長
西野瑠美子

アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」では、4月29日から第3回特別展「置き去りにされた朝鮮人『慰安婦』」展を開催している。朝鮮人女性の被害に特化して「慰安婦」問題を伝えようと考えた時、そこに見えてきたのは「置き去り」問題だった。

韓国光州市にある「慰安婦」被害者が共同生活を送るナムムの家には、現在9名のハルモニが暮らしているが、そのうちの半数は戦後半世紀以上を経てようやく祖国に帰国できた女性たちだ。日本の敗戦により彼女たちは「慰安婦」生活から解放されたが、解放とは名ばかりで、現地に棄て去られた彼女たちを待ち受けていたのは過酷な運命だった。

戦後、中国東北地方の東寧で中国人と結婚し、2005年まで中国で暮らした金順玉ハルモニは、「生きていくために、中国人と結婚するしかなかった」と呟く。「地理も言葉も習慣も分らず、頼る人もいない異国の地に投げ出された私たちが生きる道は、現地の男と結婚するしか方法はなかった」と。「こんな体で故郷には帰れない」と、望郷の念に駆られながらも帰国できなかった女性もいる。

金ハルモニは中国で暮らしながらも「朝

鮮人であることを失いたくなかった」ため、朝鮮語を忘れることはなかった。しかし、ハルモニと同じ東寧の慰安所に入れられ、戦後、現地で暮らしていた池ドリハルモニは、すっかり朝鮮語を忘れてしまった。「慰安婦」体験のトラウマがそこに透けて見える。池ハルモニはナムムの家で暮らすようになってからも、中国から帰国したハルモニたちと中国語でしか話すことができない。

李玉善ハルモニは2000年に中国から帰国した。彼女は長い年月、いつか故郷に帰りたいたいという思いに支えられて生きてきた。

「故郷である釜山の駅に連れて行ってくれば、あたしは目を瞑ってでも家に帰れるよ」と言っていたハルモニだったが、実際、釜山の駅に降り立ってみると、「目を開いてもここがどこだか分らなかった」という。臉に思い描いていた故郷は、そこになかった。数十年ぶりに妹弟たちに再会したものの、「慰安婦」だった体験を持つハルモニが親族から歓迎されることはなかった。「慰安婦」体験は、彼女から帰る場所さえ奪ったのだ。

取り返しのつかない人生、失われた歳月。「慰安婦」問題はけっして戦時下の被害だけではない。「置き去り」問題には、「慰安婦」問題の本質が凝縮されている。女性たちにとって、未だ戦争は終わっていない。今回の特別展を通して、そんな忘れ去られた女たちの人生に目を向けていただきたいと思う。

岡まさはる記念長崎平和資料館

館長 高實康稔

修学旅行生減少（観光客自体の減少）の影響が当館にも現れていますが、最近は外国人の来館が次第に増加し、国際的認知の高まりを感じさせる嬉しい面もあります。

これから9月までの活動を紹介し、内外での認知がいつそう高まることを期待してやみません。

(1)「教えられなかった戦争・中国編」の上映会

高岩仁監督「教えられなかった戦争」シリーズの最新作を上映(6月11日)するとともに、監督の講演を聴きます。中国侵略戦争の恐るべき実態を知らずして歴史認識の共有はありえません。同時に現在の危うい状況(首相の靖国参拝強行、自衛隊の海外派兵、教育基本法および憲法の改悪企図)にどう立ち向かうべきか、監督を交えて考えます。

(2)「731部隊特別展」の開催

昨年9月、「侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館」と友好館提携を結びましたので、その提携事業として「特別展」の開催(7月7日~17日)と記念講演会(7月9日、王鵬館長および常石敬一神奈川大学教授)を企画し、目下鋭意取り組んでいます。ABC企画委員会提供のパネルと独自製作パネル、発掘された「石井ノート」や米国議会資料(731部隊免責に関する秘密資料)のコピーの展示が主な内容です。なお、王鵬館長の来日は事情によって実現に至らない可能性があります。

(3)「日中友好・希望の翼」の派遣

「侵華日軍南京大屠殺遇難同胞紀念館」との友好館提携(2000年8月)以来、毎年夏に学生2名を公募して上海~南京の旅に派遣してきましたが、今年も8月14日~20日、銘心会南京友好訪中団に合流する形で派遣します。今回は南京のみならず、天津を訪れて新設の革命烈士紀念館の開幕式に参加し、展示や強制連行被害者からの聞き取りによって歴史認識を深めることが期待されています。南京大学および南京師範大学の学生との交流ももとより大きな刺激

となり、歴史認識の溝を埋める機会となることでしょう。

(4)「侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館」訪問

9月23日~29日(予定)、「瀋陽~ハルビンの旅」を計画しています。市民を募って訪中団を結成し、中国侵略の爪痕を訪ねるとともに、「七三一部隊罪証陳列館」との友好関係を強めたいと願っています。

平和資料館・草の家

事務局長 金英丸

草の家を中心と活動している「あなたから平和の風を: Wind of Peace」(故西森茂夫先生の詩「風になろう」から、日常的に平和の活動を行う集まりの名前をつくりました)は、11月10日イラク支援ボランティアの高遠菜穂子さんを迎えて「命に国境はない」と題した講演会を開催しました。高遠さんは、イラクの現状を約110分にわたって感情を抑えながら報告しました。

参加入場者900名以上、参加層も若者が半数を占めました。寄せられた感想のほとんどが「イラク戦争の事実がわかった」、「テレビや新聞では知らされないショックな映像と事実と、戦争は絶対いけないと強く思った」、「自衛隊は早く帰して」、「アメリカはイラクから出て行け」などなど多数寄せられました。

「あなたから平和の風を: Wind of Peace」に登録し活動に参加しているほとんどは青年学生です。この日も50名ほどのメンバーが最後まで頑張りました。青年学生の取り組みに感動された方々からたくさんのカンパが寄せられました。「あなたから平和の風を: Wind of Peace」のメンバーに高遠さんは「こんなにたくさ

んの若者が私の講演会を準備し、これほどの参加者で成功させた経験は初めてです」と励まし、これからの活動に期待を寄せられました。

昨年11月より平和資料館・草の家ホールが、月1回ライブの舞台に変わっています。「Title of Mine～タイトルは私自身です」というライブを企画した安藤真菜さんの感想を紹介します。

「草の家で一人ひとりが形や上手い下手にとらわれず自由に自分自身を表現できるイベントをしたい!!!という熱い思いから初めて早4回目をむかえました。

草の家に訪れたことがない人が集まり、沢山の素敵な出会いがありました。いつもとは雰囲気もガラリと変え平和と戦争資料が融合した貴重で重要な場ではないかと常々私は感じていました。

平和資料館のホールとして又違った一つの平和への提示、模索、実感の場になっていると自負しています。こういう活動を自由にできる場、それが平和資料館・草の家です。そんな草の家をこれからも私達一人ひとりが守り育てていきましょう。」

今年の新年交流会では、「世代をつなぐ平和への思い：先輩が若者へ、若者が先輩へ」というテーマで平和について世代間の対話を行いました。岡村正弘館長を始め3人の先輩が、自分の生い立ち、若者たちへ送るメッセージ、平和への思いを語りました。

これにたいして若者たちが演奏や憲法朗読などで答えました。世代を繋いで平和運動を拓げていく試みとして、これからも続けて行きたいと思えます。

「あなたから平和の風」のメンバーが中心となり、ビキニ被災者に対して現地

調査や学習会を行うようになりました。2月10日には室戸の被災者を訪ね、聞き取り調査を行いました。これからも学習会や調査、問題解決のために取り組んでいきます。

04年から始まった連続講座「草の家平和講座」を続けます。今年は「歩兵44連隊誘致と兵営敷地献納運動」、「沖縄戦、731部隊から考える戦争と命」、「高知と済州島の戦争遺跡」、「ベトナム戦争と障害者」、「平和教育と美育」、「槇村浩と高知の反戦運動」、「経済のグローバリゼーションと反グローバリズム」のテーマで、7回の講座を予定しています。

第1～3週金曜日（5時～7時）、最終の日曜日（2～4時）、帯屋町中央公園の北口で、イラクから自衛隊の撤退、外国軍の占領中止を求める反戦行動、ピースライブを続けています。

海外のニュース

オーストリア平和博物館 (First Austrian Peace Museum)

フランツ・ドイチュ

平和のためのちらし：対話への欲求

平和博物館とは何か？

ヴォルフゼグにあるオーストリア平和博物館は次の四つの基本理念を掲げています。

1. 戦争の無意味さを個人のレベルで考えさせ、議論を誘発する。
2. 平和活動に興味を持ち、参加する人々のコミュニケーション・センターとなる。
3. 平和博物館は「戦争はいつ、どこで始まるのか？平和はどこから始まるのか？」

という問いを研究する学校である。この問いに満足な答えを出すために平和教育が強く求められる。

4. 平和博物館の最終的な目標は地球規模のネットワークを作り、世界を「平和な友人の社会」にする拠点となることである。

これは平和博物館を考える上で非常に参考になりますが、このような規定が硬直化し、平和博物館に対する考え方を制限するようなことがあってはなりません。平和博物館にとって、その定義は思索の出発点であるに過ぎないのです。

ガンジー博物館、ホロコースト博物館、アンネ・フランク資料館、イエーゲルシュテッター資料館などは部分的に平和博物館の機能を有しており「平和関連博物館」として平和博物館の立派な一員です。戦争を防ぐだけでなく、人間が生きていける環境作りも重大な関心事なのですから、アムネスティ・インターナショナル、グリーンピース、世界野生生物基金、赤十字、ノーベル賞委員会なども平和博物館に含めるのは当然でしょう。

崇高な理念のみがこの素晴らしい世界の存続を可能にすると信じています。

Franz Deutsch, Graben 20, A-4902
Wolfsegg, Tel. ++43-7676-7271
<http://www.ooevbw.org/Friedensmuseum/index-e.htm>

スイス：国際赤十字・赤新月博物館

ジュネーブの国際赤十字・赤新月博物館は写真、フィルム、活字、展示物を通して人類初の人道組織の歴史を興味深く紹介すると同時に、紛争や悲劇がどのように展開

してきたかを歴史的・近代的視点から批判的にとらえることができるようにしています。

2006年9月13日から2007年1月28日まで、当博物館では「カンボジア 1975～1979 大量虐殺の記録」を催します。

1979年のベトナム軍侵入によりクメール・ルージュ政権が倒れるまで170万人の命が犠牲になりました。

それから20年以上たった現在も大量殺戮を行った人々は司法の裁きを受けていません。しかし最近の政治情勢の変化により裁判を組織する可能性が芽生え、国際社会の後押しもあって2007年には責任者たちを裁判にかけることが実現すると思われま

す。今回の展示ではクメール・ルージュが犯した大量殺戮とそれが現代カンボジア社会に与えた影響を検証します。大量殺戮が起きた歴史的・文化的背景、1975年4月にクメール・ルージュが政権を取ることを可能にした状況、その政権の根幹にあるイデオロギーも再検討しています。

展示会では1979年のベトナムによるクメール・ルージュ政権転覆と、その後のカンボジアへの影響も紹介しています。展示の最後のリティー・パニユのドキュメンタリー「S-21 クメール・ルージュの虐殺者たち」(2002)は犯罪者が処罰されずにいることと、それに対する被害者の思いを描いています。

クロアチア

「最高の遺産 (The Best in Heritage)」国際フォーラム開催

場所：クロアチア共和国ドゥブロブニク

期間：2006年9月21～23日

国際博物館会議、国際記念物遺跡会議、ユネスコ、ヨーロッパ・ノストラ各議長、および国際・全国委員会委員様、博物館、文化保存あるいは遺産保存団体代表、館長、館員様、博物館と遺産を愛する方々へ

「最高の遺産」は大規模な国際フォーラムで、世界中から専門的にもっとも創造的・教育的な遺産開発プロジェクトを集め展示します。これはコンペではなく、すぐれた専門知識やアイデアを交換しようというもので、30あまりの国から熱心な関係者が集まります。

遺産文化に関するさまざまな最新情報、博物館や美術館などにおける最高の仕事に触れることができます。遺産文化に関する優れた業績を、展示を通して広く一般に知らしめたいと考え、毎年9月に美しい由緒ある都市ドゥブロブニクで開いているものです。

今年は5周年ということもあり、要職にある関係者も多数参加の予定です。みなさまのご来賓をお待ちしております。

昨年の「最高の遺産」に出展された全プレゼンテーションがDVDになりました。最新の理論や実践を学び、教える上で素晴らしい教材になります。詳しくは www.heritage.novena.hr まで。

トミスラフ・ソーラ(Tomislav Sola)教授
ヨーロッパ遺産協会(European Heritage Association)

Prof. Tomislav Šola

European Heritage Association

Krešimirov trg 7

HR - 10000 Zagreb, Croatia

Tel/fax.:+385 1 455 04 24 / cell.
phone:+385 (0)98 468 158

info@thebestinheritage.com

www.TheBestInHeritage.com

イタリア：「平和の家」

3月17日から19日にかけて、ボローニャの近くのカーザレッキオ・ディ・レーノで「平和の家」(通称は製糸工場)の落成式が盛大に行われました。

この新しいセンターは市の補助を受け、十年以上地元で活動を続けているボランティア組織「平和への道」によって運営されます。

センター内にはヴィットリオ国際平和ポスター資料センター (Vittorio's International Peace Posters Documentation Centre) があり、ポスター50枚を展示する特別展覧会が開催されました。

「平和の家」は以前製糸工場だった建物を修復して使用しています。市長や州知事やイタリアの平和活動家たちがスピーチを行い、充実した催しが繰り広げられました。(ピーター・ヴァン・デン・ダンガン氏より)

ドイツ：「白バラ」の展示について

中村実生

ミュンヘン市の北には、シュヴァービングという街区があります。もともと芸術の都として名高いミュンヘンの中でも、とりわけこの街区は、昔から多くの芸術家を引き寄せてきました。画家のパウル・クレーやカンディンスキー、作家トーマス・マンやリルケなど、ここを活動の場にした芸術家、あるいは自称芸術家の名は、枚挙にいとまがありません。その一人に、画家志望だった青年アドルフ・ヒトラーがいます。1913年、彼はヴィーンからここへ流れ着き、第一次世界大戦後は政治活動に転じます。ミュンヘンは、ナチズムの揺籃と台頭の地でもあるのです。

「白バラ」のメンバーたちが学んでいたミュンヘン大学も、このシュヴァービングにあります。「白バラ」は、第二次世界大戦中の、ドイツ国内における最も有名な反ナチズム運動の名前です。ミュンヘン大学の学生を中心としたメンバーたちの多くは、帰還兵でもありました。彼らはナチズムの欺瞞と、来たるべきその没落に気付いていました。一刻も早くナチズムの蛮行を終らせ、ドイツを再生させるために、1942年から翌43年にかけて、思想と言論に対する厳しい統制下、彼らはナチスへの抵抗を呼びかけるスローガンを街角に書き、また6種類のビラを撒きます。ナチズムの台頭と、それに対する抵抗の舞台が、共にミュンヘン、そしてシュヴァーピングであるのは、皮肉なこととはいえ、決して偶然ではないでしょう。保守的な土地柄でありながら新しいものへの寛大さをも備えたこの街が、彼らを引き寄せ、育てたのです。

現在、大学前の広場は、「白バラ」の中心メンバーだったハンスとインゲのショル兄

妹を記念して、「ショル兄妹広場」と名付けられています（道路を隔てた向かい側の広場は、やはり「白バラ」運動に協力した教授を記念して、「フーバー教授広場」と呼ばれています）。今も学生達が行き交う広場の石畳には、「白バラ」のビラが、まるでたったいま撒かれたかのように、埋め込まれています。その広場から建物に入ると、そこは大きな吹き抜けのホールです。今年日本でも封切られたドイツ映画『白バラの祈りーゾフィー・ショル、最期の日々』を御覧になった方は、まさにそこが、ショル兄妹がビラを撒いた舞台であることに気付くでしょう。1943年2月18日、ここで6番目のビラを撒いた2人は、ついに守衛に見つかり、その場で逮捕されます。彼らが処刑されたのは、わずか4日後のことでした。映画のロケも行われたホールの一角には、ひっそりと「白バラ」の記念碑があり、ショル兄妹やフーバー教授など、運動に加わり、ナチスによって処刑されたメンバーたちの名前が刻まれています。そして、この記念碑のすぐ裏側に、「白バラ記念室」があります。そこで展示を行っている「白バラ」財団は、戦後、様々に語られ、歪められることも多かった「白バラ」の実像を伝えるため、生き残ったメンバーや、処刑されたメンバーの遺族らによって1987年に設立されました。「白バラ」の背景や活動を紹介するこの展示は、誰でも自由に見学することができます。なお昨年からは展示の縮小版が翻訳されて、日本各地を巡回しています。

（2006年5月：東京、国際基督教大学、6月：愛知大学など）。



展示を見る訪問者



地面に展示されたピラ

アメリカ

ワシントン州ベインブリッジ島歴史博物館元館長のジェラルド・エルフェンダールさん (Gerald Elfendahl) から下記のメールが来ました。日本の戦争責任のとり方について、考えさせられます。

これは 1987 年の感謝祭の日に大シアトル教会評議会特別委員会 (a special committee of the Greater Seattle Council of Churches) が先住アメリカ人の指導者に示した謝罪宣言です。シアトル大司教管区の司教が素晴らしいスピーチを行っており、興味があるならそのコピーもお送り

します。この文書は世界中の初代民族に読まれ、国連にも渡ったと聞いています。

北米インディアンとエスキモー人の部族会議、およびその伝統的精神的指導者への公開宣言

親愛なる皆様

わたしたちは教会を代表して先住アメリカ人の精神的慣行の破壊に長く関わってきたことを正式に謝罪します。あなたたちが連邦政府の不当な政策に苦しめられているとき、わたしたちはそのことに無自覚かつ冷淡でした。合衆国憲法成立 200 年を記念する本年、わたしたちは北米の教会指導者としてあなたたちに赦しと祝福の言葉を乞います。

わたしたちはわたしたちの教派と団体の人びとに呼びかけます、あなたたちが伝統としてきた精神的な教えをよみがえらせ、守る努力に協力の手をさしのべることを。この目的のためにわたしたちは「アメリカ宗教自由法 (the American Religious Freedom Act)」を支持し、その範囲内で次のことを擁護します。

- (1) 憲法によって守られている全ての宗教と同様に、先住アメリカ人が伝統的儀式・慣行を行い参加する権利
- (2) 儀式の目的で神聖な場所および国有地に入る権利、またそうした場所の保存
- (3) 儀式の際の宗教的シンボル (羽根、タバコ、草 (スイート・グラス)、骨など) の使用

土地の精霊の力、あなたたちの固有の宗教の知恵はキリスト教の教会にも大いなる恵みとなることを信じます。わたしたちは過去の過ちをただし、重要な宗教問題ではあなたがたと連帯し、適切な時期に現在行

われている州当局や連邦政府職員との交渉を後押ししたり仲介者の役を果たします。

今日の約束がわたしたちの信仰会派のすべての信徒団の公記録に載り、北米先住アメリカ人に伝えられますように。

1987年(以下カトリック、プロテスタントの様々な会派の牧師10名の署名がありますが、省略します。)

アメリカ：平和に関する映画

「誰がわれわれの物語を語るのか」

アメリカの芸術家で政治活動家であるJ.カディル・キャノン氏の映画「誰がわれわれの物語を語るのか」(31分)が4月15日と16日に広島のワールド・フレンドシップ・センターと平和記念資料館で上映されます。戦争の恐怖と虚しさを描いたこの映画はアメリカの劇場や大学で公開されてきました。京都、豊橋、さらに北京と上海でも上映の予定です。キャノン氏はスーザン夫人とともにアジアの芸術家や教育者と協力して4、5、6月と平和プロジェクトを行います。4月23日には日米の芸術家とともに豊橋駅国際平和プロジェクトを開催します。

教育者であるスーザン夫人はアメリカの戦争文化のなかでいかに平和教育を展開するか、ということについて講演をします。夫人は25年以上に渡って中等教育に携わり、中国の中等学校でも教鞭を執り、さまざまなワークショップや公開講座を開いています。

カディル・キャノン氏の父親はマンハッ

タン計画に参加した物理学者でしたが、原子爆弾の軍事利用に反対しました。父親に触発されたキャノン氏はスーザン夫人と共に、世界市民としての連帯を結ぶため日本に来ることになりました。広島市民から核兵器の恐ろしさを学び、芸術家や教育者、その他の市民との対話を通して平和教育推進のための世界的コミュニティ作りを考えていきたいと思っています。

Kadir Cannon氏の芸術作品と映画について：www.jkadircannon.com

Susan Cannonの平和教育については、下記のホームページを御覧ください。http://www.ea1785.org/Eax_FacultyPage.aspx?euid=1000

平和と連帯の国際博物館：ウズベキスタン アナトリー・イオネソフ (Anatoly Ionesov)

(1) 日米共同平和嘆願

2006年4月23日

豊橋駅国際平和プロジェクト

アメリカは国粹主義と帝国主義と先制攻撃に走り、日本は軍国主義の力が平和憲法を変えようとしています。しかし憲法第9条こそアメリカと日本だけでなく全世界の国家の指針となるべきものです。

わたしたちは日本人とアメリカ人に世界との平和な関係を選択することを訴えます。間違った道を行こうとする指導者をただすのは、わたしたち普通の市民です。

わたしたちは人類という家族に危害を与える国粹主義、帝国主義、軍国主義を否定し、力を合わせて子供たちに平和、尊敬、協調、平和な共存の道を教えることを望みます。

平和な日本、平和なアメリカ、平和な世

界のために力を貸してください。

(2) あなたのメッセージを！

わたしたちは 2750 才、お祝いのパーティーを開きます。

2006 年の八月と九月、国際平和連帯ミュージアムの活動家と地元の友好クラブ「エスペラント」の主催によりウズベキスタン共和国独立 15 周年とサマルカンド生誕 2750 年祭を開催します。サマルカンドはユネスコの世界遺産に登録されている都市です。

わたしたちとパーティーに参加しませんか。形式、言語は構いませんのでメッセージをお寄せください。ウズベキスタンやサマルカンドにまつわる手紙、旅行記、ニュース、本、小冊子、詩、歌、写真、絵など何でもいいのです。送っていただいたものは配布、展示いたします。

生活の一場面であれば、町の様子、お店、レストラン、ホテル、地域生活、会社、商品に至るまで、何を描いても OK。受け取ったものはすべて特別展示として飾られます。特に面白いものは国内のメディアによって紹介される予定です。あなたの積極的な参加をお待ちしています。

受付はもう開始しています。送り先は
Anatoly Ionesov
International Museum of Peace and
Solidarity
P.O. Box 76, UZ - 703000 Samarkand
Republic of Uzbekistan.
Phone/ fax: +998 (662) 33 17 53.
Web:
<http://www.civilsoc.org/nisorgs/uzbek/peacemsm.htm>
<http://www.aliaflanko.de/urbo/samarkan>

[d/samarkand.html](http://samarkand.html)
<http://peacetur.freenet.uz>
<http://peace.museum.com>
http://satamikarohm.free.fr/article.php3?id_article=357

E-mail: imps@rol.uz or
imps86@yahoo.com

アメリカ：デイトン

デイトン平和博物館は 2006 年 1 月 30 日から 4 月 4 日までデイトン地区に 12 フィート×25 フィートの広告板を使ってマーチン・ルーサー・キング、マザー・テレサ、ガンジー、アルバート・アインシュタインの平和メッセージを掲げます。

マスメディアは暴力と戦争の文化を広める媒体の一つでしたが、いまこそ豊かな未来を約束する平和の文化を創造する道具に変えなければなりません。

スティーブ・フライバーグ
デイトン国際平和博物館
Steve Fryburg
Dayton International Peace Museum
A Space to Make Peace.
208 W. Monument Ave., Dayton, OH
45402
937-227-3223
International Network of Museums for Peace



キング牧師の写真と言葉:「兄弟のように仲良く生きていくことを学ばなければ、愚か者のようにどちらか滅んでしまうだろう。」

インド：国立ガンジー博物館

ニューデリーに国立ガンジー博物館があります。1960年に建てられ、ガンジーの生涯と仕事を写真、映画やガンジーが使用した物の展示物で示しています。彼が暗殺された時の銃弾も、展示されています。館長は Dr. Y.P.Anand です。下記の本を博物館で出版しています。

Gandhi's Social Philosophy: Perspective and Relevance by B.M. Ganguli (1973)

連絡先 : Rajghat New Delhi 110 002 India
Tel: +91 11 331 1793
Fax: +91 11 331 1793
E-mail: gandhimk@nda.vsnl.net.in

ドイツ：ガンジーサーヴ財団について

ガンジーサーヴ財団はマハトマ・ガンジーの生涯と著作を普及させることで非暴力の倫理を広めようとするドイツの慈善団体です。

真実、愛、非暴力に関するガンジーのメッセージは生態学的な破局に直面し、さまざまな暴力がますます吹き出してくる現在、今まで以上に重要性を増していると思います。非暴力の倫理は国境や政治的境界を越えて生きているのです。

財団規約は財団の目的を「科学的、文化的、歴史的研究と教育の促進」とし、活動内容を「マハトマ・ガンジーの著作と彼について書かれた文書の発掘と保存」、「平和、非暴力の倫理、マハトマ・ガンジーの人と教えを広く伝える教育プロジェクトの実施と経済的支援」と定めています。

財団は世界中のメディア専門家と提携して、ガンジーに関する映画、テレビ番組、CD-ROM、展示、ウェブサイト、書籍刊行を行い、グジャラート地震のような自然災害の際にはガンジーの思想に乗っかって行動していきます。

GandhiServe Foundation

http://www.gandhiserve.org/information/about_gandhiserve/about_gandhiserve.html

<http://www.gandhiserve.org/arts/artsindex.html>

(Peter Ruhe 氏からのメールより)

アフリカ

2006年「博物館と若者」

5月18日国際博物館デーに行う活動内容の提案

テーマ：「博物館と若者」

博物館のなかでは若手専門家たちがその活動や遺産を伝える方法に変革をもたらし、

変わり続ける文化的、社会政治的環境の中で蒐集品の価値を高めようとしています。

博物館の外からは若者が体験や情報を求めて訪れ、博物館はより大きな社会的責任を負い、地域社会、異文化間の対話、寛容の精神の育成に目を向けることが求められています。

今年の国際博物館デーは若者たちの役割に焦点を当て、一般の人々に今まで以上に連帯感のある、寛容な社会の建設を訴えたいと思います。

昨年は 50 あまりの国が国際博物館デーに参加しましたが、いっそうの規模の拡大を願っています。

活動

事務局から国際博物館デーの活動として役に立ちそうな案をだしてもらいました。

1 子供向け

「きみの傑作」美術展

子供たちに美術の名作のレプリカを作らせ展示する。賞を与えるのもよいが、どの子供の努力も報われるべきであることを忘れないように。

宝探し

子供たちにいろいろな質問や謎を解いてもらいながら、館内を巡って指定された「宝物」を探してもらおう。年齢別に質問や謎を変えた方がよい。

きみのコレクションをもってきて

子供たちに趣味のコレクションを持ってきてもらい、他の子供や博物館員や訪問者と交流する機会を設ける。

2 青年向け

ボランティア募集

ティーンエイジャーを対象に博物館でのボランティア活動希望者を募る。博物館員が彼らの進路相談に応じるのもよい。

博物館に泊まろう

恐竜や美術の傑作の横で一夜を過ごし、博物館員と交流したり知識を身につける。館内の案内、映画、セミナーなどの催しもよい。

3 青年ボランティア向け

感謝の夕べ

博物館の成長・発展に尽くしてくれるボランティアたちに感謝を捧げる。

4 博物館と若き芸術家向け

芸術家エキスポ

新進芸術家にその才能を展示する機会を与える。博物館は地元の若手芸術家とコンタクトすることができる。博物館の後援者に来てもらって芸術家たちと話をしてもらおうのもよい。

5 気持ちは若い人向け

ノスタルジア・ナイト

子供にかえて、子供向けの活動に参加してもらったり、子供向けの展示を見てもらう。あるいは 50 年代 60 年代のポップカルチャー、音楽、映画などレトロな展示を行う。

6 博物館に来たことがない若者向け

地域社会出張プログラム

博物館の専門家が、博物館に来られない

人びとのために教室やコミュニティー・ホールを借りて興味を引く、対話型のセミナーを開催する。

若者に売り込め

地元の経営学専門学校や博物学専攻の学生に同じ年代の人間を博物館に引きつけるようなマーケティング計画を立てさせる。

7 専門家に会おう

交流会

若手とベテラン博物館員の交流会。

若手指導

できるだけ多くの博物館で若手指導のプログラムが導入されるべき時期ではないだろうか。これは若手に管理能力をつけさせ、職場の価値観や考え方に慣れさせる重要な手段である。

ともに展覧会の主事を

若手にキュレーターと一緒に展覧会を主事させる。若手はキュレーターの仕事の内容、博物館のコレクションを知ることができ、またキュレーターから指導や助言を受けることができる。

皆様の活動が実りあるものとなりますように。また ICOM に活動の写真や記事などもお送りください。

R. ハンナ

<http://www.sfsu.edu/~museumst/minerva/regev-00.html>

(<http://www.africom.museum/>より)

Muse の感想

ピーター・ヴァン・デン・ダンジェン博士より (Dr. Peter van den Dungen)

「ミューズ」を送っていただき、いつもありがとうございます。どの号にも日本における平和博物館と平和展示に関する、興味深くて勇気づけられるニュースが載っていますね。どうやら日本では新たな平和博物館を作る運動が今までにもまして力強く展開されているようです。他の国ではそのような進展が見られないというのにもかかわらず、です。

平和教育に関心のある人、とりわけ平和博物館と平和展示会をもちいて平和を促進しようとする人間は、「ミューズ」日本語版と国際版の両方を定期発刊するあなたの奮闘に長い間助けられてきました。「ミューズ」が日本の平和博物館ネットワークの維持と強化のために中心的役割を果たしていることは疑いありません。また英語版が出ていることで、平和博物館に興味を持つ日本以外の国の人びとも興味ある情報を手にすることができるのです。

平和のための博物館国際ネットワークはニューズレターの刊行を中止しましたので、ネットワークのメンバーと「ミューズ」の読者は、記事があるときは、「ミューズ」に送っていただきたいと思います。(もちろん紙面の関係がありますので載るかどうかは分かりません)

今後とも「ミューズ」の編集が継続されることを切に願います。「ミューズ」に感謝する読者は世界中にいるのです。

国内ネットワークのニュース

太平洋戦史館：岩手

「戦史館だより」第53号には、昨年出版した『太平洋戦史館』が第11回平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞を受賞したこと、

インドネシア遺骨収集（2006年1~2月）などが載せられています。

Tel 0197-52-3000 Fax: 0197-52-4575

東北大学史料館：宮城・仙台

企画展「東北帝国大学の学徒出陣・学徒動員」が2階展示室で2005年11月1日～2006年2月24日の会期で開催されました。

Tel: 022-217-5040 Fax:022-217-4998

<http://www.archives.tohoku.ac.jp/>

埼玉県平和資料館：東松山市

テーマ展Ⅱ「絵双六に見る昭和の世相」が企画展示室で2006年2月14日～4月9日の会期により開催されました。

テーマ展Ⅰ「時の記録者－絵葉書にみる昭和と新収集資料」が企画展示室で2006年4月29日～6月11日の会期により開催されました。

平和朗読会が2006年5月27日に開かれ、木下夕子さんのフルート演奏とともに、朗読会「窓」の方たちが、谷川俊太郎の詩「生きる」、日本戦没学生記念会編の手記「きけわだつみの声」、UNHCR編聞き書き「ヤコブの物語」、辻邦生の小説「ライラック」などを朗読しました。

Tel:0493-35-4111 Fax:0493-35-4112

<http://homepage3.nifty.com/saitamapeacemuseum/>

丸木美術館：埼玉・東松山市

企画展「没後10年 丸木位里展」が2005年11月1日～2006年2月17日の会期で開催されました。

「核が作り出した光景 豊崎博光写真展」が2006年2月21日～3月24日の会期で開催されました。

2005年度第3回企画展「丸木美術館支援芸術祭」が2006年3月28日～5月20日の会

期で開催されました。

2006年度第1回企画展「没後50年 丸木スマ展」が2006年5月27日～9月2日の会期で開催されています。

Tel:0493-22-3266 Fax:0493-24-8371

<http://www.aya.or.jp/~marukimsn/top/kiku.htm>

船橋市郷土資料館：千葉

2005年に開催された企画展第1部の資料図録『戦争・平和と市民の暮らし』が2006年3月31日に刊行されました。

Tel:047-465-9680 Fax:047-467-1399

<http://www.city.funabashi.chiba.jp/kyodo/>

東京大空襲・戦災資料センター：東京・江東区

「シンポジウム 都市空襲を考える 第4回」がティアラこうとうで2005年12月10日に開かれ、立正大学名誉教授の藤田秀雄さんの講演「空襲体験から現在の問題を考える－平和のための歴史創造者となる学習」、早稲田大学名誉教授の北村実さんの講演「東京大空襲、ヒロシマ・ナガサキから60年－いま世界の平和を考える」などがありました。

「東京大空襲を語り継ぐつどい」がティアラこうとうで2006年3月4日に開かれ、小沢昭一さんの講演などがありました。

Tel:03-5857-5631 Fax:03-5683-3326

<http://www9.ocn.ne.jp/~sensai/>

女たちの戦争と平和資料館：東京・新宿区

アート展「全国を巡ったハルモニの思い－ナムムの家 絵画・写真展」が2005年11月23日～12月4日の会期で開催されました。

第2回特別展「松井やより 全仕事」展が2005年12月11日～2006年4月23日の会

期で開催されました。

第3回特別展「置き去りにされた朝鮮人『慰安婦』展」が2006年4月29日～11月12日の会期で開催されています。

第1回特別展「女性国際戦犯法廷のすべて」展の図録が2006年5月に刊行されました。

Tel:03-3202-4633

<http://www.wam-peace.org/>

高麗博物館：東京・新宿区

特別展示「戦時朝鮮人強制労働・虐殺 日本軍「慰安婦」—海南島で日本は何をしたか」が2006年5月17日～7月16日の会期で開催されています。

Tel:03-5272-3510 Fax:03-5272-3510

<http://www.40net.jp/~kourai/>

ホロコースト教育資料センター：東京・新宿区

ホロコースト教育資料センターは、共生の時代を担う子どもたちが、ホロコーストの歴史を学び、命や人権を尊ぶ、寛容な心を育てほしいと願い設立された特定非営利活動法人(NPO)です。訪問授業やパネル貸出、セミナーを行っています。

ホロコースト教育資料センターメールマガジンをご希望の方はぜひご登録ください。発行頻度：2か月に1回程度。不定期。

内容：セミナーや学習会のご案内、新しい教材パネルのお知らせ、など

無料(登録はいつでも解除できます)

holocaust@tokyo.email.ne.jp

<http://www.ne.jp/asahi/holocaust/tokyo/index.htm>

都立第五福竜丸展示館：東京・江東区

展示館は2006年6月10日に開館30周年をむかえます。4月15日に記念コンサート「響

きあう福竜丸のしらべ」が開かれ、日本フィル弦楽四重奏団と寺島陸也さんのピアノにより、林光「第五福竜丸のテーマ」などが演奏されました。6月10日には、「『廃船』を観る会」と「記念祝賀会」が東京神田神保町の学士会館で開かれ、『開館30周年記念誌 都立第五福竜丸展示館30年のあゆみ』が刊行されました。

特別展「写真でたどる第五福竜丸展示館の30年展」が2006年6月10日～9月20日の会期で開催されています。

Tel:03-3521-8494 Fax:03-3521-2900

<http://d5f.org/>

かつしか郷土と天文の博物館：東京

『可豆思賀(かつしか)2』が刊行され、第二次世界大戦中、葛飾区の金町で製造された戦闘機「キ94」に関する講演会の内容などが掲載されています。

Tel: 03-3838-1101 Fax:03-5680-0849

<http://www.city.katsushika.lg.jp/museum/>

豊島区立郷土資料館：東京

企画展「池袋モンパルナスを生きた人々」が2006年3月16日～5月14日の会期で開催されました。このなかで、池袋の空襲や戦後のやみ市を描いた絵も展示されました。

研究紀要『生活と文化』第15号が、2005年12月25日に発行され、青木哲夫さんの「一九四五年四月一三—一四日東京空襲の目標と損害実態—米軍資料を用いて」などが収録されています。

Tel:03-3980-2351 Fax:03-3980-5271

<http://www.museum.toshima.tokyo.jp/top.html>

国立国会図書館：東京・千代田区

第142回常設展示「経済誌から見た戦前—関東大震災・昭和恐慌・二・二六事件」が東京本館で2006年3月22日～5月16日の会

期で開催されました。

Tel:03-3581-2331

<http://www.ndl.go.jp/>

日本大学文理学部：東京・世田谷区

特別展「地図と写真で見る日本の空襲ー
きく・まなぶ・つたえる」と豊川市との共
催展「豊川海軍工廠展」が、百周年記念館
および図書館展示ホールで、2005年12月4
日～24日の会期で開催されました。

Tel:03-3329-1151

<http://www.chs.nihon-u.ac.jp/>

神奈川県立地球市民かながわプラザ：横浜市

長倉洋海写真展「アフガニスタンの山の
学校から」、「朝鮮学校の日常」の写真パネ
ル、「世界の子どもに教育を」のキャンペ
ーンパネルなどを展示する「写真展・パネ
ル展」が3階の企画展示室で2006年1月28日
～2月5日の会期により開催されました。

「モンゴルの暮らしと文化展」が3階の
企画展示室で2006年2月16日～3月14日の
会期により開催されました。

Tel:045-896-2121 Fax:045-896-2299

<http://www.k-i-a.or.jp/plaza/>

桐蔭学園メモリアルアカデミウム：神奈 川・横浜市

「横浜・東京大空襲展ー絵と写真で見る
都市壊滅の悲劇」がソフォスホールで2006
年5月13日～6月3日の会期で開催されま
した。

Tel:045-975-2100

<http://www.cc.toin.ac.jp/MA/main/index.htm>

日吉台地下壕保存の会：神奈川

日吉台地下壕保存の会は、第4回戦争遺
跡ガイド養成講座を1月14日に開きました。

日吉台地下壕は、太平洋戦争末期に海軍の
連合艦隊など政府機関の施設として構築さ
れかつ使用された大規模な地下壕です。ま
た小学生にもわかるガイドブック『戦争
遺跡を歩く 日吉』を作成しました。

連絡先：〒223-0064 横浜市港北区下田町
5-20-15 亀岡敦子 気付

Tel/Fax: 045-561-2758

<http://www.geocities.heartLand-Hanamizuki/2402>

長岡戦災資料館：新潟

平和学習用のパンフレット『太平洋戦争
と長岡空襲』が2006年3月31日に刊行さ
れました。

Tel:0258-36-3269 Fax:0258-36-3269

<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/dpage/syomu/sensai/top.html>

平和文化史料館ゆきのした：福井

「ゆきのした文化協会」は、昨年12月
に戦後60年の節目の年に取り組んだ憲法
学習会や福井空襲企画展の活動内容と、そ
の成果をまとめた実践報告集『わかる憲
法・感じた空襲』を発行しました。憲法と
身近な日常生活との接点、国会で審議が進
む「改憲論」の問題点をわかりやすく説明
しています。

Tel/Fax: 0776-52-2169

<http://www.yukinoshita.net/>

(館報、第161号より)

松代大本営の保存をすすめる会：長野

ガイド養成講座が2月25日からはじま
りました。またパンフレット『松代大本営象
山地下壕ひとり歩き』のハングル版ができ
ました。

詳しいニュースは、ニュース「保存運動」
で知ることができます。4月10日発行の第

184号には、中国人強制連行「長野訴訟」の判決について記事があります。強制連行・強制労働があったことは認めましたが、原告の主張をしりぞけました。詳細はさらに「中国人戦争被害者の要求を支える会」のホームページで知ることができます。

〒380-0928 長野市若里3-5-5きぼうの家
松代大本営の保存をすすめる会

Tel/Fax: 026-228-8415

<http://www.suopei.org/saiban/renko/index.html>

静岡平和資料センター

企画展「今を問う、『静岡市大空襲体験画』展—戦争体験者が語る、体験画からの思い」が、2006年3月17日～6月25日の会期で開催されています。

Tel:054-247-9641 Fax:054-247-9641

<http://homepage2.nifty.com/shizuoka-heiwa/>

戦争と平和の資料館（仮称）：名古屋市

資料館の建設を来年5月までにしようと、平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会では準備をしています。「建設ニュース」第1号には、理事の宮原大輔氏の「アクティブミュージアムということ」という記事がありました。その中でドイツのアクティブミュージアム運動について次のように指摘されていました。

ドイツのアクティブ・ミュージアム運動は、「加害の中核だった場所は、単なる記念展示の場だけでなく、個人がナチズムの歴史を自ら学び、考え、行動できる市民に代わっていくエンパワーメントの場であるべきだ」と展開されてきた。… 政府が「過去の克服」の方向をとらない日本にあって、ドイツとの落差は甚だしいが、資料館を作ろうとする私たちにとっては教えられるところがある。… 私たちの戦争と平和の資料館も、世界や国内の先行する活動を参考

にしつつ、「過去の克服」の一端を担い得るものになりたいと思う。

Tel: 052-962-0136 Fax: 052-962-0138

E-mail: npo@memorial-aichi.jp

甲南ふれあいの館：滋賀県・甲賀市

戦時下の暮らしを伝える「昭和の里山」展が、2005年11月19日～2006年2月26日の会期で開催されました。

Tel:0748-86-7551

立命館大学国際平和ミュージアム：京都市

特別展「ぼくたち わたしたちの生きた証—『若人の広場』旧蔵・戦没動員学徒遺品展」が1階の中野記念ホールで2005年12月1日～16日の会期により開催されました。これは、戦没動員学徒慰霊施設「若人の広場」から寄贈された資料の中から戦没動員学徒の遺品に絞って展示したものです。図録を刊行し、展示品の写真、回想記、「若人の広場」から寄贈された資料一覧などを収録しました。また、文書資料のうち日誌・日記・作文・書簡・葉書・追悼文・追悼録などは全文を写真版で図録に収録し、翻刻も大部分を図録に収録し、残りは紀要『立命館平和研究』第7号に収録しました。記念講演会「勤労働員と学徒の被害を考える」が、2005年12月11日に立命館大学衣笠キャンパス創思館のカンファレンスルームで開かれ、愛知県史調査執筆委員の佐藤明夫さん、桜ヶ丘ミュージアム学芸員の平松弘孝さん、広島平和記念資料館学芸員の勝部知恵さんの3人が講演しました。

特別展「『平和を築く』—小野今絵画展」が1階の中野記念ホールで2006年5月10日～6月10日の会期により開催されました。これは小野今さんから寄贈された絵画などを紹介するものです。

ミニ企画展「陶器製手榴弾展」が2階常

設展示場の中のミニ企画展示室で 2005 年 11 月 16 日～2006 年 1 月 18 日の会期で開催されました。ここでは京都・清水の藤平陶芸から立命館大学国際平和ミュージアムに寄贈された 250 点以上の陶器製手榴弾をはじめ、備前焼、信楽焼、美濃焼、有田焼など全国の陶器製手榴弾を展示しました。これは万野翔子さんによる陶器製手榴弾についての考古学的な研究成果を展示するものでした。

ミニ企画展「忘れないこと 戦争前後の思い出体験」が 2 階常設展示場の中のミニ企画展示室で 2006 年 1 月 22 日～3 月 26 日の会期で開催されました。これは三原巖さんが大阪空襲などの体験を描いた絵を展示したものです。

ミニ企画展「アジアの子どものたちを支援する写真展」が 2 階常設展示場の中のミニ企画展示室で 2006 年 4 月 1 日～8 日の会期で開催されました。これは NPO 法人「グッドネーバーズ ジャパン」の支援活動や支援しているスマトラの子どものたちの様子を撮った写真を展示したものです。

ミニ企画展「治安維持法展」が 2 階常設展示場の中のミニ企画展示室で 2006 年 4 月 13 日～26 日の会期で開催されました。これは治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟京都府本部が収集した資料を展示したものです。

ミニ企画展「日本の子どもたちが見た『イラク戦争』」が 2 階常設展示場の中のミニ企画展示室で 2006 年 5 月 3 日～6 月 25 日の会期で開催されています。これは舟橋市立芝山中学校美術科の先生の藪内好さんが指導して生徒に制作させたコラージュ作品を展示するものです。

『常設展図録』が立命館大学国際平和ミュージアムの監修、岩波書店の発行により、2005 年 12 月 8 日に刊行されました。

紀要『立命館平和研究』第 7 号が、2006 年 3 月 25 日に発行され、福島在行さんの「『フォーラム』としての平和博物館は可能か？—吉田憲司の提言から考える」などが収録されています。

常設展示で展示している NGO の活動を紹介するシンポジウムが、2005 年 11 月 9 日に第 1 回が、2006 年 6 月 1 日に第 2 回が、それぞれ開かれました。

「アンゼラスの鐘」の上映会が 2005 年 12 月 11 日に、「父と暮らせば」の上映会が 12 月 12 日に、それぞれ開かれました。

Tel: 075-465-8151 Fax: 075-465-7899

<http://www.ritsumei.ac.jp>

京都大学大学文書館：京都市

企画展「京都大学における『学徒出陣』」が、京都大学百周年時計台記念館 1 階歴史展示室で、2006 年 1 月 17 日～4 月 2 日の会期で開催されました。これは、学徒出陣者や戦没者の数など、京都大学大学文書館の調査・研究の成果を展示したものです。

Tel: 075-753-2651 Fax: 075-753-2025

<http://kual.archives.kyoto-u.ac.jp>

大阪国際平和センター（ピースおおさか）

特別展「漫画家たちが描いた戦争体験—昭和二十年の絵手紙」が 1 階特別展示室で 2005 年 11 月 15 日～12 月 27 日の会期で開催されました。

特別展「国境突破—1989 年ハンガリーの夏、ショプロンから」が 1 階特別展示室で 2006 年 1 月 17 日～3 月 21 日の会期で開催されました。

特別展「戦後 60 年 写真が伝えた戦争—N. Y. デーリー・ニューズ写真コレクション」が 1 階特別展示室で 2006 年 3 月 28 日～5 月 24 日の会期で開催されました。

特別展「心をこめて、地雷ではなく、花

をください」展が1階特別展示室で2006年5月30日～7月9日の会期で開催されています。

「12.8開戦の日 平和祈念事業」として、「特攻とは、何であったのか」が1階講堂で2005年12月4日に開かれ、フリーアナウンサーの叶桂子さんによる読み語り「すみれ島」と戦史研究家の今井健嗣さんによる講演「元気で命中に参りますー特攻隊員の遺書から」がありました。

「3.13大阪大空襲 平和祈念事業」として、「語り継ぐ、空襲ー昭和20年3月、東京と大阪が火の海になった日」が1階講堂で2006年3月12日に開かれ、東京大空襲・戦災資料センター館長で作家の早乙女勝元さんと関西大学名誉教授の小山仁示さんによる講演と対談がありました。

核軍縮フォーラム「核の危機は乗り越えられるか」が2006年2月18日に開かれ、京都大学大学院教授の浅田正彦さんの講演がありました。

「21世紀の平和を考えるセミナー」は、第18回として前鳥取環境大学学長の加藤尚武さんによる講演「ゲルニカを忘れないでー戦争抑止への道を探る戦争倫理学」が2005年11月26日に、第19回として写真家の沼田早苗さんと国連難民高等弁務官駐日事務所広報館の箱崎律香さんによる講演「明日帰れる？ 難民とその帰還」が2006年1月28日に、第20回として映画会「リトルバーズーイラク 戦火の家族たち」が2月25日に、第21回として平和学研究者のヨハン・ガルトゥングさんによる講演「平和を創る発想術ー紛争から和解へ」が5月28日に、それぞれ1階講堂で開催されました。

第13回戦跡フィールドワーク「都島区、旭区の空襲あとを歩く」が、関西大学名誉教授の小山仁示さんらの案内で2006年6月11日に開かれました。

Tel:06-6947-7208 Fax:06-6943-6080

<http://mic.e-osaka.ne.jp/peace/>

堺市立平和と人権資料館：大阪

2006年4月1日に常設展示がリニューアルしました。環境問題について新たに展示していますが、これまであった南京大虐殺事件、朝鮮人の強制連行・強制労働、シンガポールの華人虐殺など日本の加害についての展示がすっかりなくなりました

企画展「田島征彦さんの『ななしのゴンベさん』原画展」を2006年4月1日～6月29日の会期で開催されています。

Tel:072-270-8150 Fax:072-270-8159

http://www.city.sakai.osaka.jp/city/info/_jinken/

平和人権子どもセンター：大阪・堺市

平和人権子どもセンターは開設10年目を迎え、利用者が2万人を超えました。教科書総合研究所へ移行する予定ですが、教科書研究者がたくさん訪問をしています。2005年度教科書採択で、性奴隷にされた女性のこと、朝鮮人や中国人が強制連行されたことに関する記述が消えたことが、平和人権子どもセンターだより「草の根」第28、29号で指摘されています。

Tel/Fax:072-229-4736

大阪歴史博物館

特集展示「大阪消防の歴史」が常設展示場中の8階特集展示室で2006年1月18日～3月13日の会期により開催されました。この中で第5テーマとして「戦時下の消防ー『最も燃えやすい都市』の最後」が取り上げられ、防空演習、防護団とともに、空襲の結果についても展示されました。

Tel:06-6946-5728 Fax:06-6946-2662

<http://www.mus-his.city.osaka.jp/>

姫路市平和資料館：兵庫

収蔵品展「資料に見る戦時下の国内生活Ⅱ」が2階展示室で2006年1月12日～3月26日の会期により開催されました。関連して、2月11日に野村勲さんが、3月12日には葭田文二郎さんが、それぞれ「空襲体験談」を話しました。

企画展「母たちの太平洋戦争」が2階展示室で2006年4月8日～7月2日の会期により開催されています。関連して、5月5日に女優の駒田真紀さんの朗読会が開かれました。6月22日に高嶋久昭さんの空襲体験談「姫路空襲を語る」が開かれます。

Tel:0792-91-2525 Fax:0792-91-2526

<http://www.city.himeji.hyogo.jp/heiwasiryoku/>

兵庫県公館県政資料館：神戸市

第9回特別展示「兵庫県と戦争」が、2005年10月14日～12月24日の会期で開催されました。

Tel: 078-362-4133

<http://web.pref.hyogo.jp/bunshoka/rekisi/siryokan/>

広島平和記念資料館

2005年度第2回企画展「宮武甫・松本栄一写真展－被爆直後のヒロシマを撮る」が東館地下1階の展示室で、2006年3月15日～9月28日の会期により開催されています。

Tel:082-241-4004 Fax:082-542-7941

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/>

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

企画展「しまつてはいけない記憶－焦土をさまよう」が2006年4月1日～2007年3月31日の会期で開催されています。

Tel:082-543-6271 Fax:082-543-6273

<http://www.hiro-tsuitokenkan.go.jp/>

福山市人権平和資料館：広島

企画展・ユニセフ写真パネル展「私も学校に行きたい」が、2006年4月26日～5月31日の会期で開催されました。

企画展「『女性週間ポスター』からみる女性の人権確立のあゆみ」が、2006年6月8日～7月30日の会期で開催されています。

Tel:084-924-6789 Fax:084-924-6850

<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/jinkenheiwashiryokan/>

高松市市民文化センター平和記念室：香川

「イラストで描いた太平洋戦争－兵士の記録！平和祈念ラバウル絵画展」が、市民文化センター1階ロビーで、2005年11月17日～30日の会期により開催されました。これは滝口岩夫さんがラバウルでの死闘や死んでいく兵士などを描がいた絵画103点を展示したものです。

「憲法記念平和映画祭」が高松市市民文化センター3階講堂で2005年5月27日に開かれ、アニメーション映画「はとよ ひろしまの空を」と「チョッチャン物語」を上映し、語り部の会の方が「戦争体験談」を話しました。

Tel:087-833-7722 Fax:087-861-7724

<http://www.city.takamatu.kagawa.jp/1740.html>

ドイツ館：徳島：鳴門市

館報「ルーエ やすらぎ」第14号によると、ドイツ館が民営化されました。映画「バルトの楽園」のロケ村が、3月21日に公開されました。映画は6月17日に日独同時公開されます。

Tel: 088-689-0099 Fax: 088-689-0909

doitukan@city.naruto.lg.jp

<http://www.city.naruto.tokushima.jp/germanhouse/index.html>

北九州平和資料館をつくる会：福岡

『戦争の語り部 北九州の戦争遺跡』が2006年4月24日に刊行されました。頒価は1200円です。

Tel:093-771-5878

福岡市博物館

「戦争とわたしたちの暮らし15」が2006年5月23日～7月17日の会期で開かれています。これは、6月19日の「福岡大空襲の日」の前後に、館蔵の戦時資料を展示するシリーズの15回目です。今回は、防空に関するポスターや書類、福岡大空襲で焼け残った瓦や時計などを展示しています。

Tel:092-845-5011

<http://museum.city.fukuoka.jp/>

長崎原爆資料館

「原爆資料館所蔵資料展」が企画展示室で2006年2月3日～3月23日の会期により開催されました。これは原爆資料館の前身である国際文化会館当時から収集した資料の一部を展示したものです。

特別展「石の記憶－ヒロシマ・ナガサキ－」が企画展示室で2006年5月20日～6月19日の会期により開催されています。これは東京大学総合研究博物館が制作した巡回展を受けたものです。

Tel:095-844-1231 Fax:095-846-5170

<http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/na-bomb/museum/>

出版物など

「朝鮮人戦時労働動員」山田昭次、古庄正、樋口雄一著 岩波書店 ¥3200

「戦時性暴力をなぜ記録するのか」アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和

資料館」編・発行 2005年 ¥1000

「平和を拓く 安齋育郎教授退職記念論集」安齋育郎教授退職記念論集編集委員会かもがわ出版 2006年 ¥2940

立命館国際研究18巻3号安齋育郎教授退職記念論集 立命館大学国際関係学会 2006年

「憲法っていったい何？」浦部法穂監修 法学館憲法研究所 2005年 ¥100

「国会議員は憲法を改正できるの？」浦部法穂監修 法学館憲法研究所 2005年 ¥200

「脱戦争：宿命論からの「解放学」」常本一著 ジャーナリスト・ネット叢書Vol.1 ¥1000

「隠されたヒバクシャ：検証 裁きなき引きに水爆被災」前田哲男監修 グローバルヒバクシャ研究会編著 凱風社 ¥3000

「グローバリゼーションと戦争：宇宙と核の覇権めざすアメリカ」藤岡惇著 大月書店 ¥2200

「平和21戦争遺跡 No.1 2006年」戦争遺跡保存全国ネットワーク編 ¥1300

Tel/Fax: 026-228-8415

IPSHU研究報告シリーズ研究報告NO.35 「資源管理をめぐる紛争の予防と解決」小柏葉子編

2005年11月出版

IPSHU 研究報告シリーズ研究報告No.36
「カザフスタン共和国セミパラチンスクに
おける核被害解明の試み：アンケート調査
を通して」：川野徳幸 2006年 3月
広島大学平和科学研究センター
E-mail: heiwa@hiroshima-u.ac.jp

詩集「シベリアの花」広田瑞恵 ¥1,500 (送
料込み) 西村膳写堂
連絡先：平和資料館「草の家」
(Fax: 088-821-0586 GRH@ma1.seikyuu.ne.jp)

Journal of Peace Education Volume 3 Number
1 March 2006 Routledge

*From Darkness to Light: Success Stories of
Survivors of Incest, Rape and the Sex Trade* by
Mary Soledad L. Perpinan (Foundress of Third
Movement Against the Exploitation of Women)
For orders contact TW-MAE-W
E-mail: info@tw-mae-w.org
Tel/Fax: 632-913-9255

映画「Nagasaki 1945 アンゼラスの鐘」は、
1945年8月9日被爆地ナガサキで、爆心地か
ら1.4キロ離れた病院で働いていた青年医
師・秋月辰一郎が、自ら被爆しながら病院
のスタッフとともに必死の治療を続け、そ
の苦悩から生まれた人類愛、そして再生へ
の40日間の物語です。現在国内での上映会
は約300会場が決定しています。

現在英語版を海外の平和博物館などへ送
る運動をするための募金を呼びかけていま
す。さらにドイツ語、フランス語など外国
版を増やす予定です。

連絡先：虫プロダクション株式会社
Tel: 03-3990-4153 Fax: 03-3990-4151
muchipro@anterlink.or.jp

The Journal of Stellar Peacemaking
(JSP) というジャーナルでは、世界や地
域でどのように平和の実現のために活
動をしてきたのかを交流することがで
きます。英文ですが、関心のある方は、
下記のホームページを開いてください。
<http://www.jsp.st/>

Tau Te Mauri / Breath of Peace:
DVD ニュージーランドにおける8人の平
和主義者に関するDVDです。72分
WickCandle Film

お願い

2006年度になりました。2006年度会費未
納の方には、請求と振替用紙を同封してお
ります。会費2000円を納入してください。

おことわり

無署名の記事は、編集者の責任でまとめ
たものですが、署名記事は執筆者の責任で
書かれたもので、「平和のための博物館・
市民ネットワーク」の事務局や編集者の見
解を、必ずしも示すものではありません。

編集後記

今回から林清俊さんが、和訳、英訳をボ
ランティアで担当して下さっています。以
前「ミューズ」に翻訳の協力をお願いした
ことがありますが、「草の家」のホームペー
ジでそれを読まれ、メールを下さいました。
翻訳の仕事は、高度の語学力は勿論ですが、
大変な時間、エネルギー、忍耐力などが
必要です。睡眠時間をさいて翻訳をして下さ
っている林清俊さんに、心からお礼を申し
上げます。